

製品保証期間：1年間

保証内容の詳細については添付の「製品保証規定」カードをお読みください。

また最新の情報については弊社ウェブサイト（www.minoura.jp）をご参照ください。

適合フレーム**前フォーク内幅：100mm**

ハブナット式・9mm クイック式・
15mm スルーアクスル式

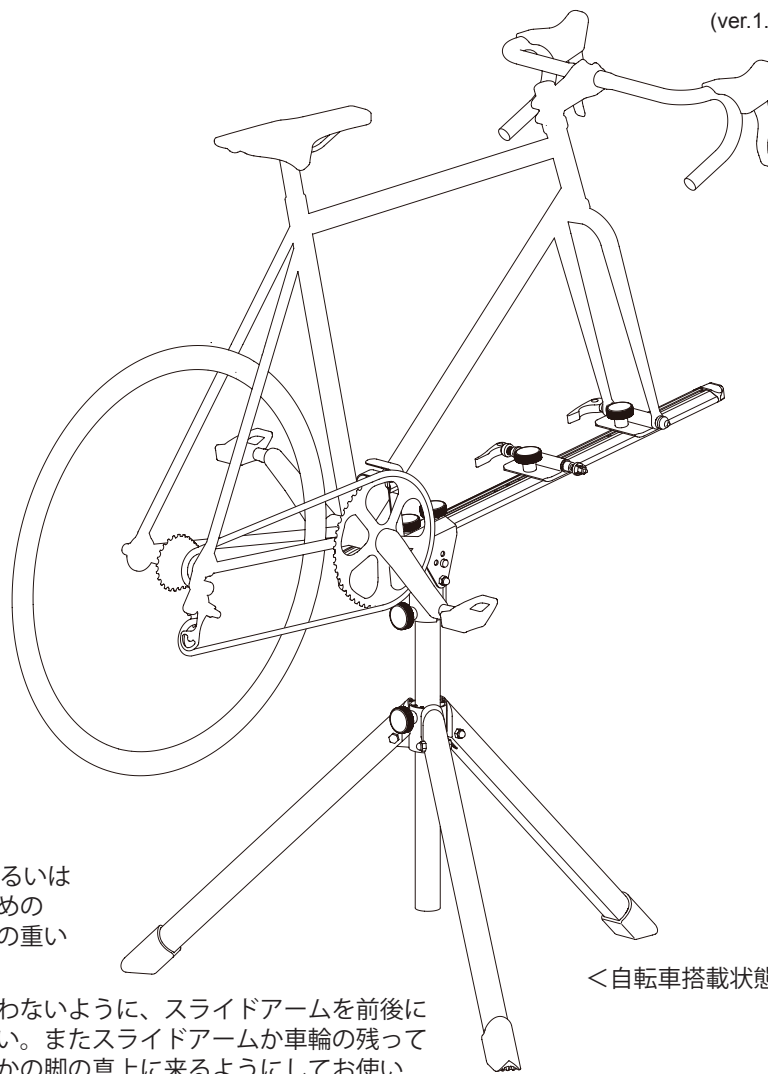
リアエンド内幅：120・125・130・135mm

ハブナット式・9mm クイック式
あるいは

内幅 142mm の 12mm スルーアクスル式

注意していただきたいこと

- RS-1700 は、通常の2輪スポーツ自転車の前輪あるいは後輪を取り外した状態で搭載し軽整備を行なうためのスタンドです。ホイールベースの長い車体や重量の重いもの、また重整備には不適です。
- 自転車を搭載する際は偏荷重により転倒してしまわないように、スライドアームを前後に移動させて重量バランスを適切に調整してください。またスライドアームが車輪の残っている側のいずれかが荷重の多い方が、三脚のいずれかの脚の真上に来るようにしてお使いください。
- 必ず平坦で水平な場所でお使いください。また三脚はいつばいに開いてお使いください。
- 搭載できる自転車は、前フォークの場合は内幅が 100mm でハブナット式・9mm クイック式あるいは 15mm スルーアクスル式のもの、フレームリアエンドの場合は内幅が 120・125・130・135mm のハブナットあるいは 9mm クイック式もしくは内幅 142mm の 12mm スルーアクスル式のもののみです。
ハブ幅 74mm の小径車や 20mm スルーアクスルの DH 車、110mm のブーストハブなど、これら以外の寸法や規格の自転車は搭載できません。
- 油圧式ディスクブレーキ装着者の場合は、車輪を抜いてからは絶対にブレーキレバーを握らないでください。戻らなくなります。
- 折りたたみである状態で移動させるとき、てっぺんの BB 受けだけを持って持ち上げないでください。不意に抜けてしまう場合があります。持ち運ぶ際は必ずフレームを持って運んでください。
- ボトムブラケットを BB 受けに載せる形で自転車を保持します。もしその付近に電動変速機のバッテリーなど他の部品がある場合には、使用できない場合があります。
- 自転車を搭載した状態で水平に回転させることができるという点を利用して洗車スタンドとしても用いることができますが、一部には水に濡れると錆びてしまう鉄製の部品が使われています。洗車の後にはできるだけ早いうちに水気を切り、しっかりと乾燥させておいてください。
- 不意の自転車の脱落を防止するため、付属のベルクロバンドを使って車体を RS-1700 に縛り付けた状態で使用してください。



<自転車搭載状態の例>

問い合わせ先

もし何かわからないことがあった場合は、まずお買い求めになった**販売店**にお問い合わせください。もしそこで十分な情報やサービスを受けられない場合に限り、下記までお問い合わせください。

株式会社 箕浦（製造元）

〒 503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1
Phone: (0584) 27-3131 / Fax: (0584) 27-7505
minoura@minoura.jp（営業）
infodesk@minoura.jp（カスタマーサービス）
www.minoura.jp

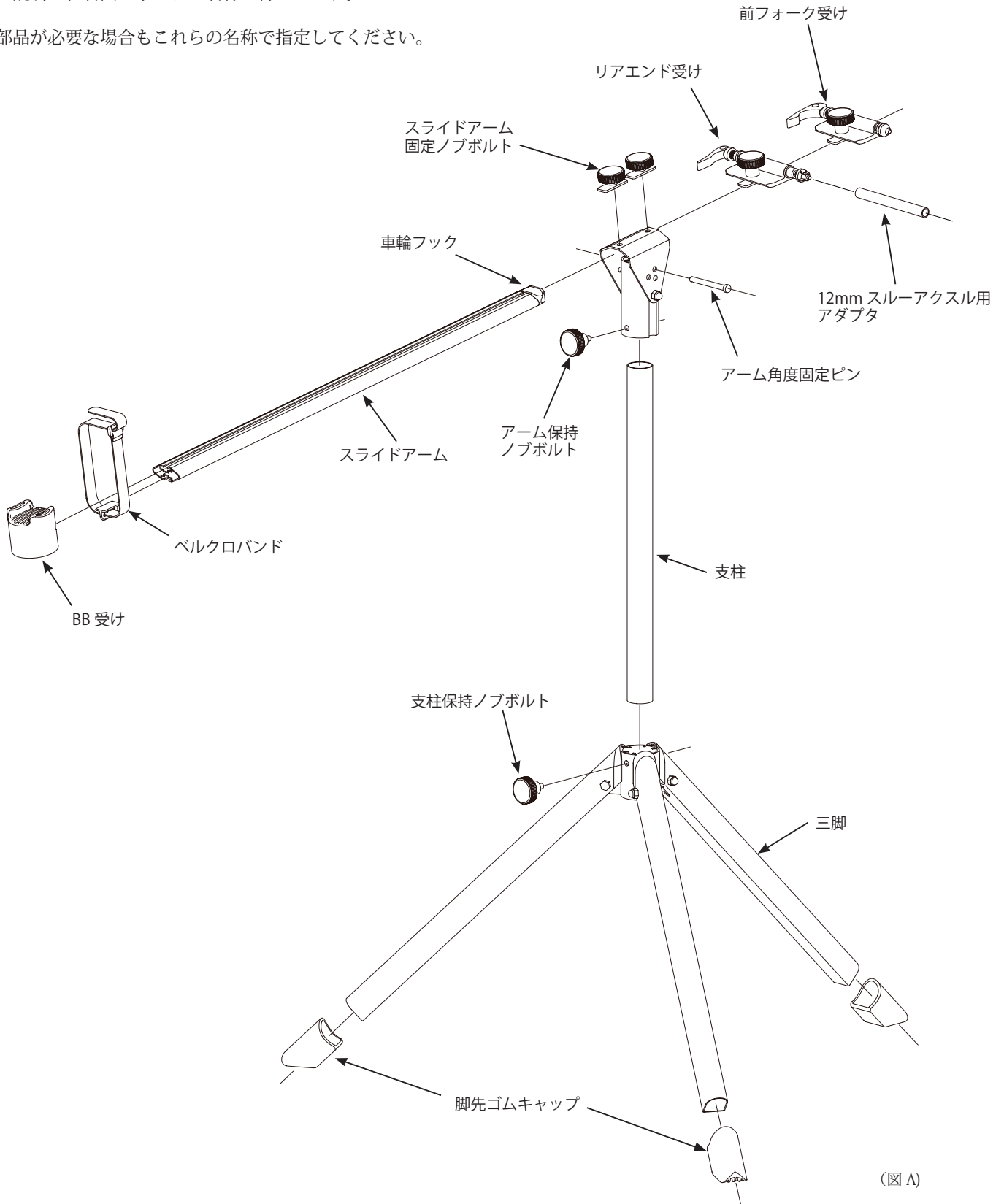
株式会社 深谷産業（販売元）

〒 462-0062 愛知県名古屋市区北區新沼町 150
Phone: (052) 909-6201 / Fax: (052) 909-6212
www.fukaya-sangyo.co.jp

各部の名称

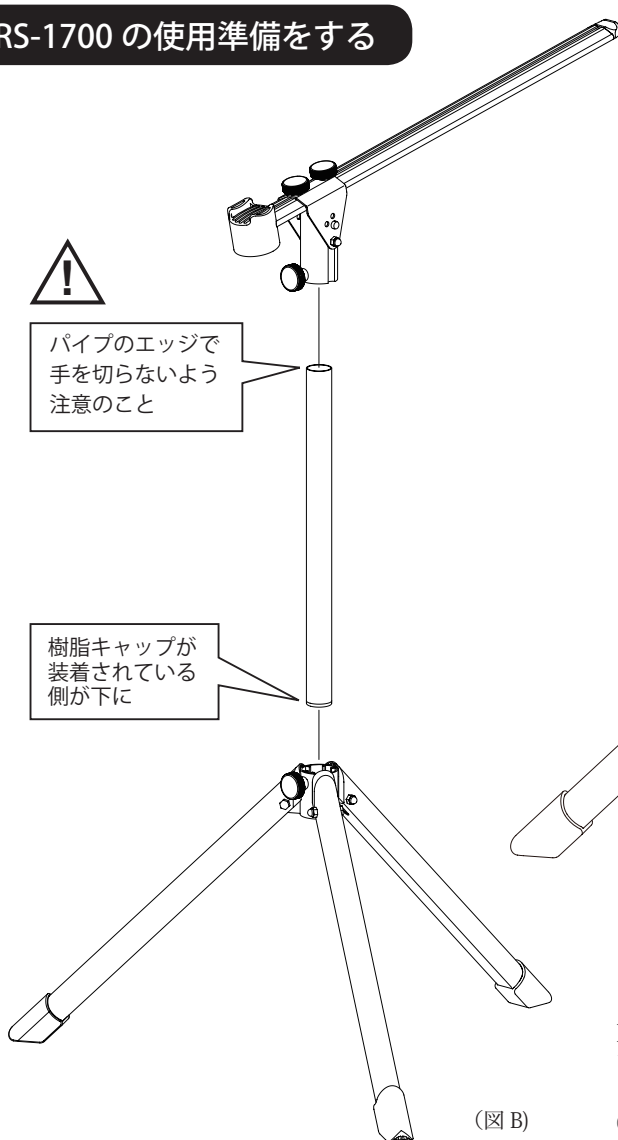
以下の説明は、右図に示された名称で行ないます。

補修部品が必要な場合もこれらの名称で指定してください。

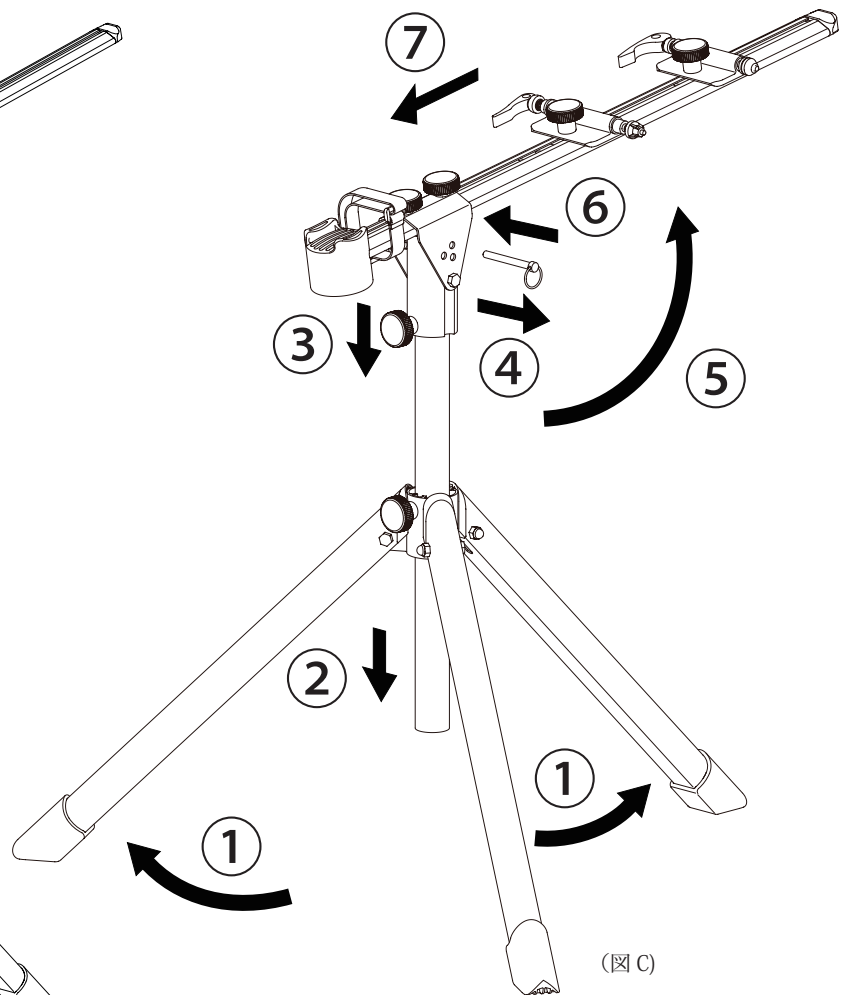


アーム保持ノブボルト・支柱保持ノブボルト・前フォーク受け・リアエンド受けのそれぞれのノブボルトは同一品です。
スライドアーム固定用のもののみサイズが異なります。

RS-1700 の使用準備をする



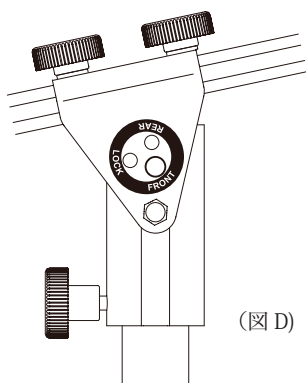
(図 B)



(図 C)

RS-1700 は各 부품の保護のため、3つに分割された姿で梱包されています。以下の手順で組み立て、使用準備をします。

- ① まず三脚をいっばいに開き、水平で平坦な床の上に置きます。
- ② 支柱保持ノブボルトを緩め、支柱を三脚中心のパイプに通し（樹脂キャップが邪魔で通しにくい場合は下から挿入します）、適当な高さで再びノブボルトを締めて保持します。支柱は、樹脂キャップが装着されている方が下側です。
- ③ スライドアーム下のパイプ部を支柱上端に奥に当たるまで挿入し、アーム保持ノブボルトを締めて保持します。
- ④ アーム角度固定ピンを抜き取ります。
- ⑤ スライドアームを回転させて持ち上げます。
- ⑥ 前フォークを保持して使う場合は「FRONT」の位置の孔に、リアエンドを保持して使う場合は「REAR」の位置の孔に固定ピンを差し込んで、アームの角度を決めます。(図 D)
- ⑦ スライドアーム固定ノブボルトを緩めてアームを前後にスライドさせ、適当なところで締め込んで固定します。
- ⑧ 使い終わって収納する際は、アームを水平回転させて2本の脚の中間に来るようにし、固定ピンを抜いてアームを折りたたみ、固定ピンをLOCKの位置に挿入しておきます。



(図 D)

スライドアーム角度固定ピンの差し込み位置

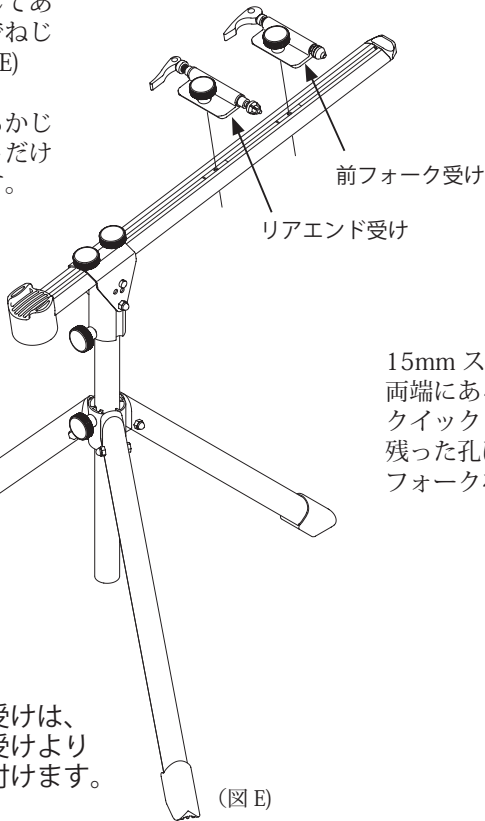
FRONT	前フォークで保持する際に適した、低いアーム角度
REAR	フレームリアエンドで保持する際に適した、高いアーム角度
LOCK	スライドアームを折りたたんだ際に不意に開いてしまわないよう保持しておく位置

前フォーク受け・リアエンド受けについて

前フォーク受けとリアエンド受けは、スライドアームの溝の中にあらかじめ挿入してある板金具にノブボルトでねじ込んで保持します。(図 E)

スライドアームにはあらかじめノブボルトと板ナットだけを取り付けられています。

アームを水平にし、ノブボルトを抜き取り、板ナットを適当な位置に動かしてから、前フォーク受けやリアエンド受けを取り付けます。



! リアエンド受けは、前フォーク受けより内側に取り付けます。

(図 E)

リアエンド受けの両端のアルミブッシュにはそれぞれに幅の広い側と狭い側があります。そのアルミブッシュをパイプに挿入する方向の組み合わせで、4種類のサイズに対応させます。(図 H)

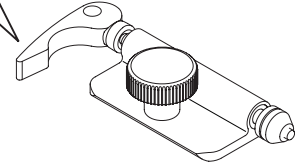
ブッシュはあらかじめ 130mm 用に組まれています。それ以外のサイズに変更する際は、裏面のイモネジを緩めてからブッシュの抜き差しを行なってください。

142mm 幅の 12mm スルーアクスルを使う場合は、ブッシュを両方とも抜き、孔の中に付属のアダプタパイプを差し込み、そこに自転車に付属の 12mm クイックアクスルを通して自転車を保持します。

! 前フォークの形状により前フォーク受け本体部に当たってしまう場合は、前フォーク受けを 180 度回して反対向きに取り付けて回避します。リアエンド受けも同様です。

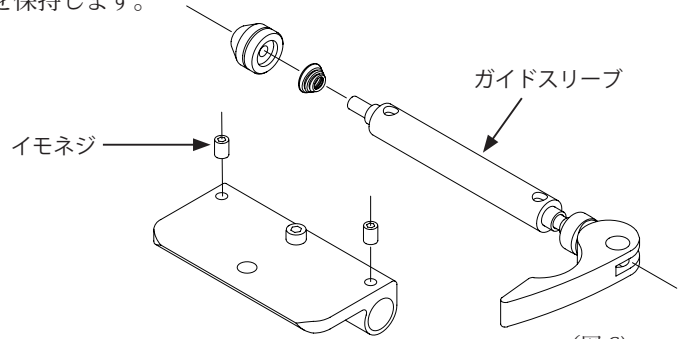
! 12mm スルーアクスルの場合、イモネジを強く締めるとアダプタパイプが変形し、アクスルが通らなくなってしまいます。イモネジは軽く締めるだけにとどめてください。

! 前フォーク受けに装着されているクイックレリーズは特殊なワイドストロークタイプです。前フォーク下端にあるホイール脱落防止爪のせいで、通常のクイックだとナットまで緩めなければならないものが、これだとレバー操作だけで大きく開くためナット操作が不要になります。

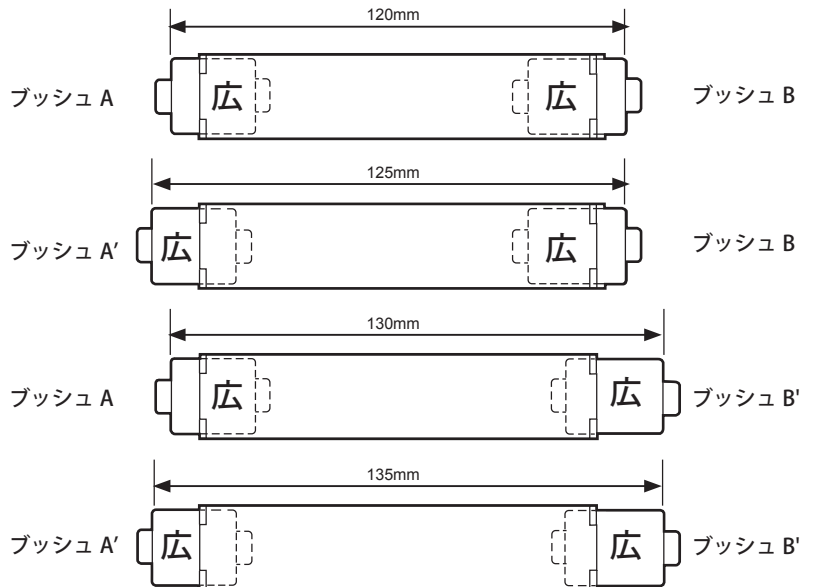


(図 F)

15mm スルーアクスル用にするには、前フォーク受け裏側の両端にある 2 本のイモネジを緩め（抜いてしまわないこと）クイックと赤いガイドスリーブをまとめて抜き取ります。残った孔に、自転車に付属の 15mm アクスルを挿入して前フォークを保持します。



(図 G)



(図 H)

! エンド幅は必ずお使いの自転車に正しく合わせてください。サイズが合わないままで使用すると、フレームを変形させてしまう恐れがあります。

RS-1700 に自転車を搭載する

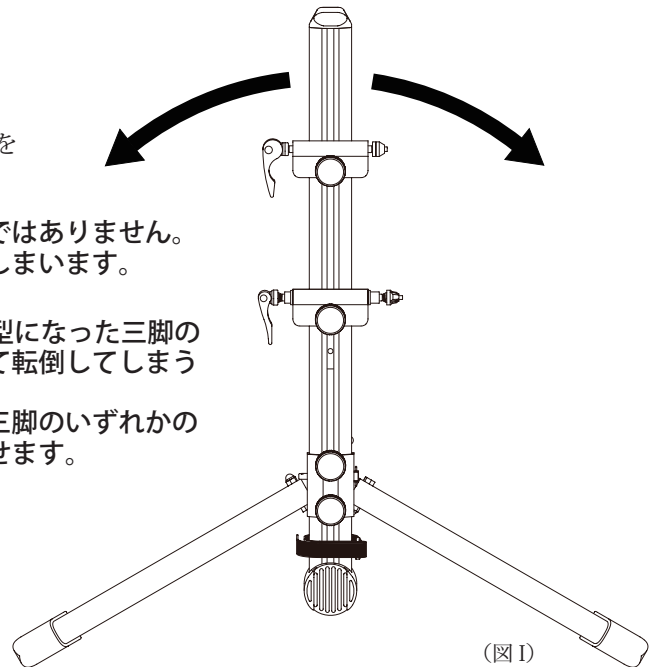
- 1** まずアーム保持ノブボルトを少し緩めてスライドアームを回転できるようにしておきます。(図 I)



下側の支柱保持ノブボルトを緩めるわけではありません。緩めるとアーム部が支柱ごと落ちてきてしまいます。



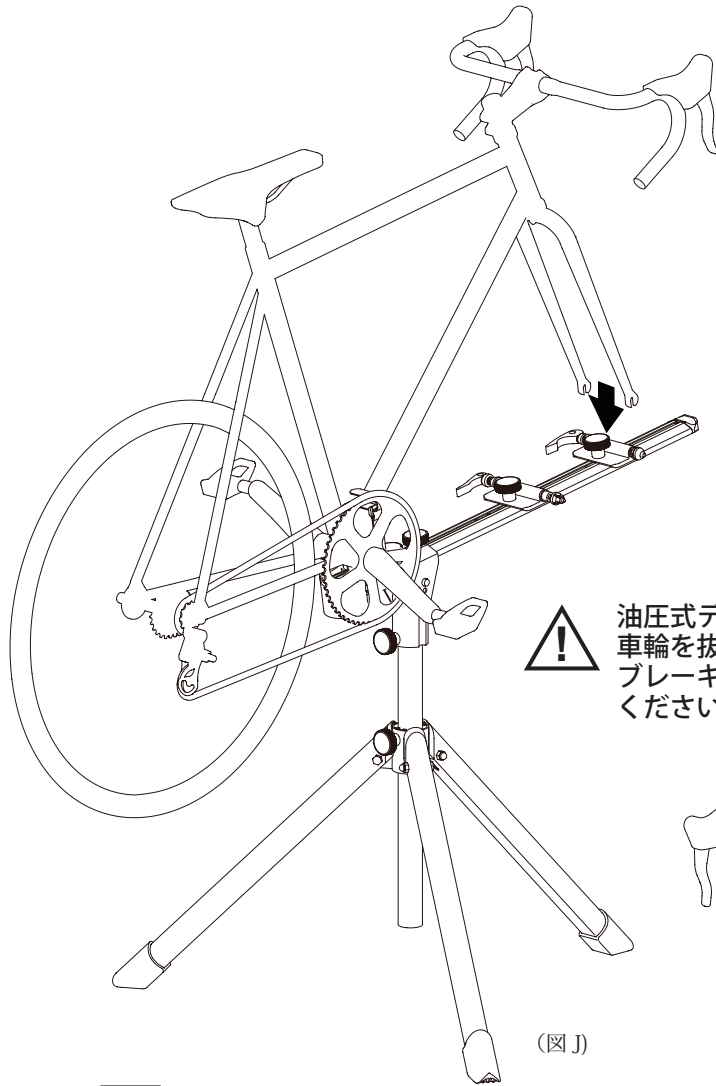
荷重の多くかかる側が、上から見て Y 字型になった三脚の脚と脚との間に来ると、バランスを崩して転倒してしまうことがあります。その際は、荷重のかかっているところが三脚のいずれかの脚の真上に来るように、少し水平回転させます。



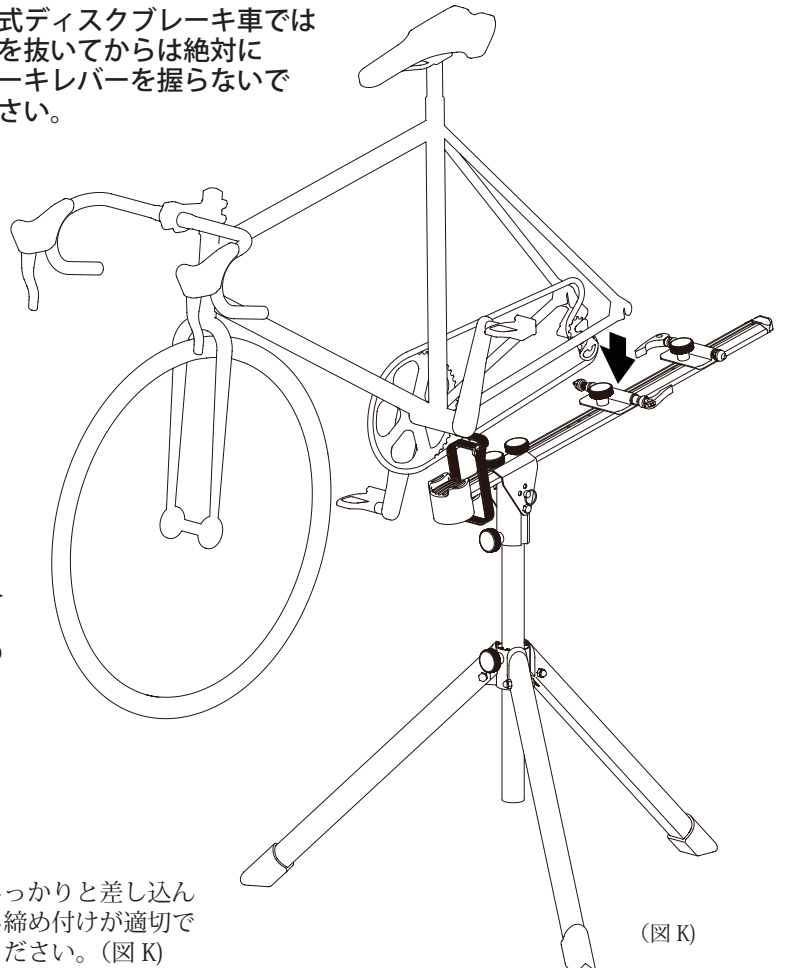
2

前フォークで保持する場合は、前輪を取り外します。ボトムブラケットを BB 受けの上に置き、前フォークを静かに前フォーク受けの上を下ろします。前フォーク受けの位置が合わない場合は、ノブボルトを緩めてスライドさせてください。調整後はしっかりと締めておきます。

クイックを開き、フォーク先端の爪をクイックにしっかりと差し込んでから、クイックのレバーを閉じて固定します。もし締め付けが適切でない場合は、レバーを閉じる前にナットで調整してください。(図 J)



油圧式ディスクブレーキ車では車輪を抜いてからは絶対にブレーキレバーを握らないでください。

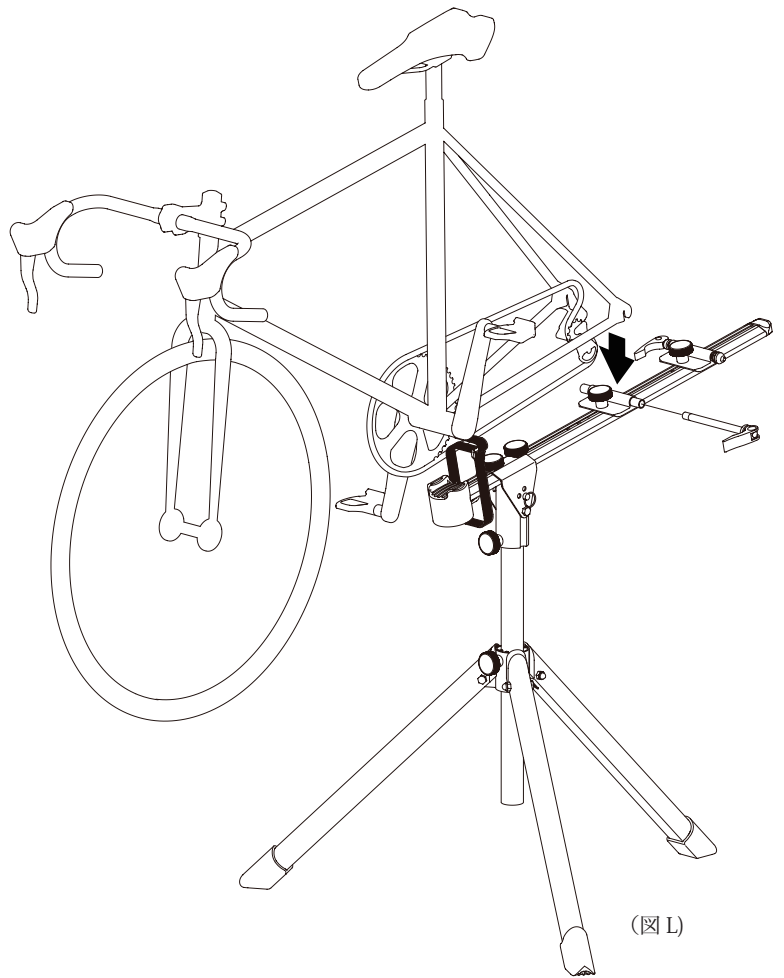


3

フレームリアエンドで保持する場合は、後輪を取り外します。あらかじめお使いの自転車に合ったリアエンド受けの幅になっていることを確認してください。ボトムブラケットを BB 受けの上に置き、リアエンドを静かにリアエンド受けの上を下ろします。リアエンド受けの位置が合わない場合は、ノブボルトを緩めてスライドさせてください。調整後はしっかりと締めておきます。

クイックを開き、フレームエンドの爪をクイックにしっかりと差し込んでから、クイックのレバーを閉じて固定します。もし締め付けが適切でない場合は、レバーを閉じる前にナットで調整してください。(図 K)

12mm スルーアクスル式のフレームの場合は、フレームの孔とリアエンド受けのパイプとを合わせ、そこに自転車に付属の 12mm スルーアクスルを差し込んで使用します。(図 L)

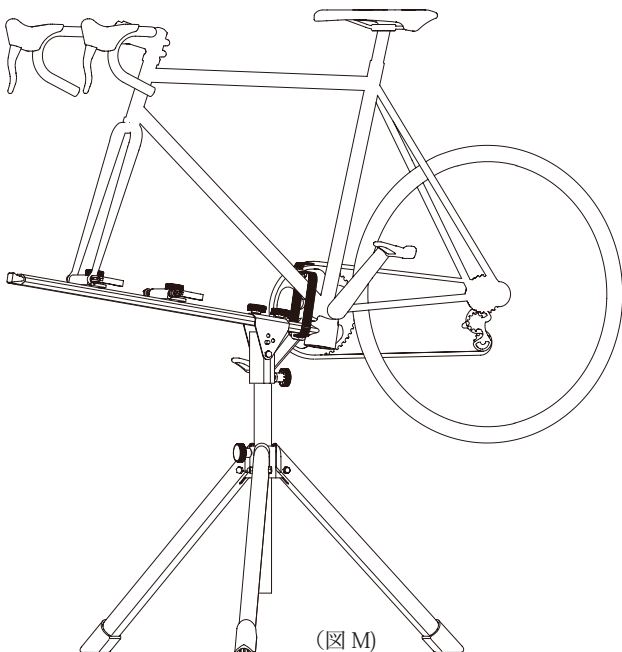


(図 L)

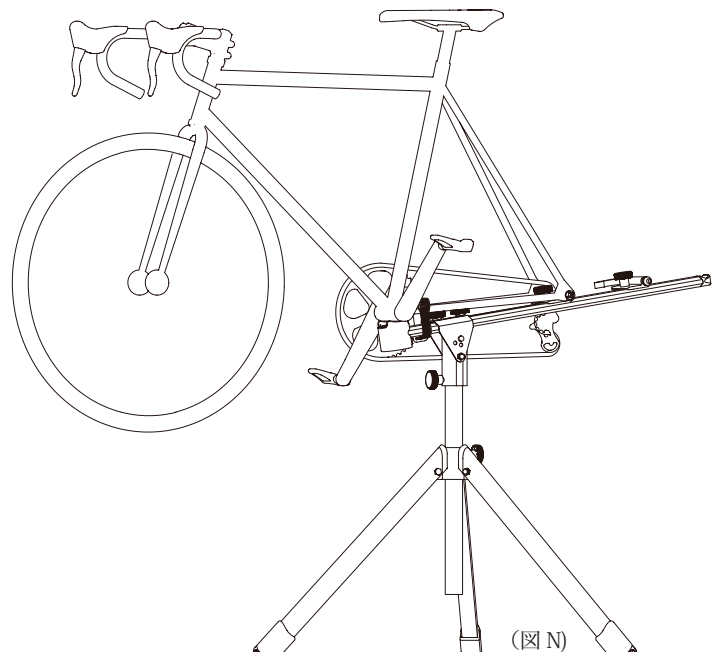
3 付属のベルクロテープでダウンチューブをアームに縛り付けて、不意の車体の脱落を防止します。

前フォークで保持している状態

フレームリアエンドで保持している状態



(図 M)



(図 N)



カーボンモノコックフレームなど、フレーム形状によってはベルクロテープが届かない場合があります。その場合は、BB 受けを底面のノブボルトを緩めてスライドアームから取り外し、ベルクロテープが通じてある金具をスライドアームの下側のレール溝から引き抜き、上側のレール溝に移動させてお使いください。

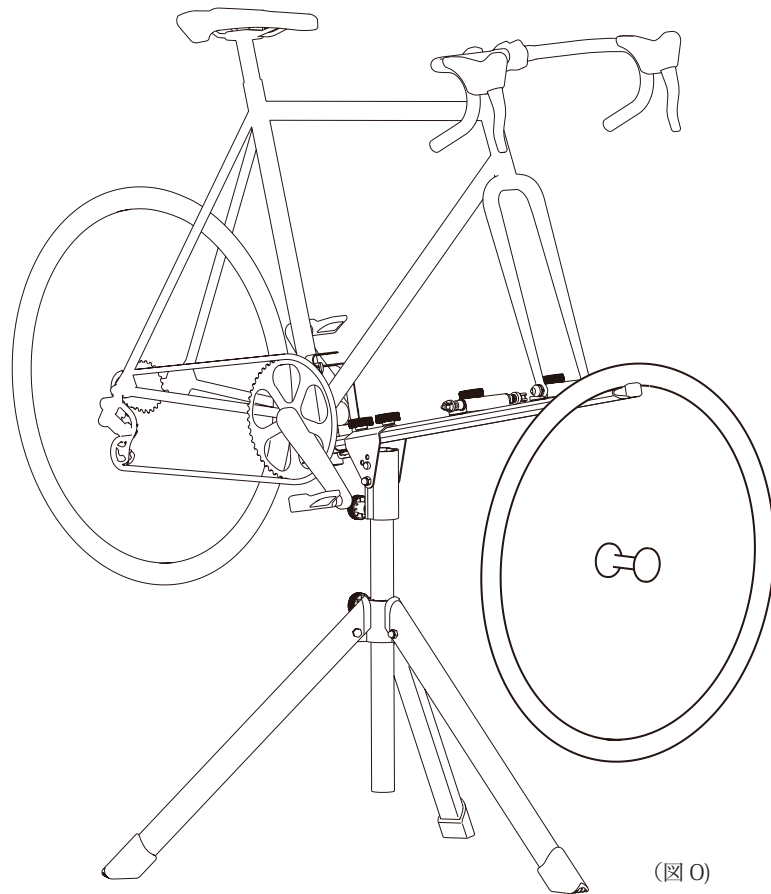


スライドアームは必ず、荷重が大きくかかっている側（一般的には車輪が残っている方）が三脚のいずれかの脚の真上に来るように、回転させて位置決めしてください。またスライドアーム自体を前後に動かして重量バランスをうまく取ってください。

取り外した車輪の保管について

スライドアーム先端には、取り外した車輪を引っ掛けておける凹みが設けられています。

またここに車輪をかけておくことで前後の重量バランスが改善され、予期せぬ転倒防止にも役立ちます。ご活用ください。




(図 O)


自転車を水平回転させる


アーム保持ノブボルトを緩めることで、スライドアームは自転車を載せたまま水平に回転させることができますようになります。

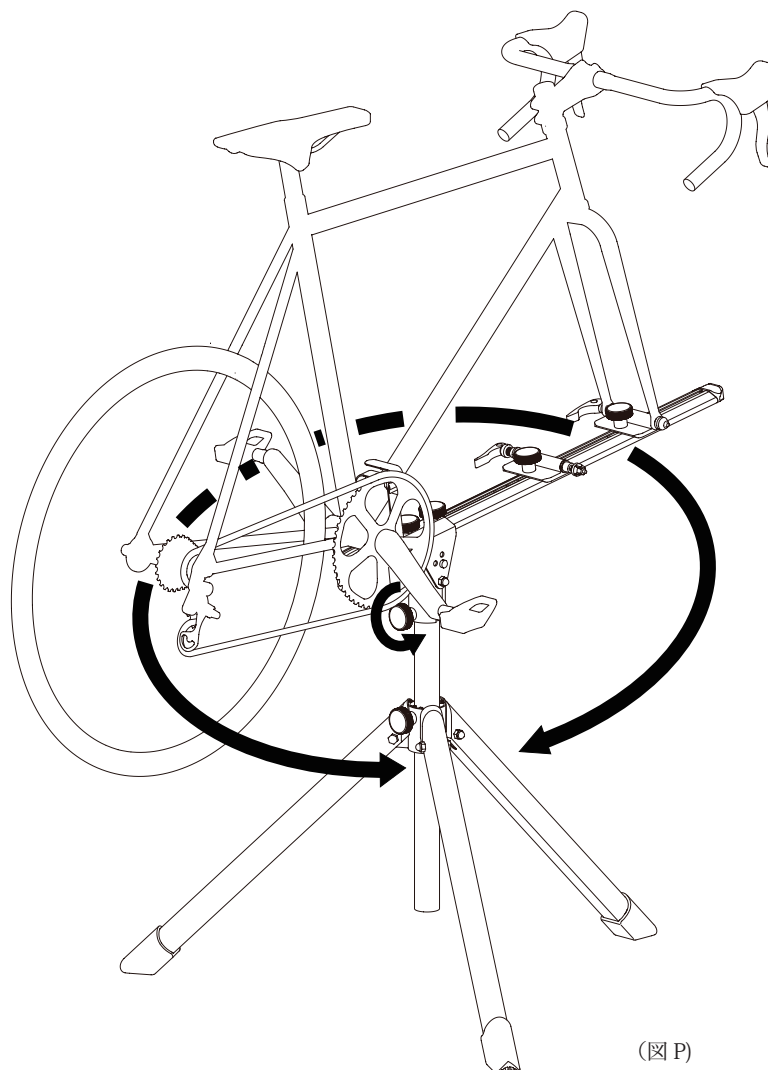
これにより、立ち位置を変えないままで自転車の左右どちらにも簡単にアクセスできるようになり、作業に便利です。

また RS-1700 を洗車台として使う際にも便利な機能です。

 回転時に一時的に偏荷重になりバランスを崩すことがあります。必ず自転車に手を添えて、ゆっくりと回すようにしてください。

 ノブボルトを緩めたままで持ち上げるとスライドアームごと抜けてしまいます。普段はしっかりと締めたままにしておいてください。

 洗車時に、濡れたままで放置しておくことで錆びてしまう鉄部品があります。使用後は必ずすぐに水分を拭き取り乾燥させてから収納してください。



(図 P)